

各 位

会社名 **ユニプレス株式会社**
代表者の 代表取締役社長
役職氏名 仁 藤 哲
(コード番号 5949 東証第1部)
問 合 取締役・専務執行役員
い 先 塩 見 荘 一 郎
せ 電 話 045-470-8250
先 HPアドレス <http://www.unipres.co.jp/>

自動車用金属製燃料タンクの超深絞り加工技術の開発・実用化
— NISSAN GT-R ユニプレスの金属製燃料タンクを採用 —

ユニプレス株式会社（社長：仁藤 哲）は、自動車用金属製燃料タンクの形状自由度を著しく拡大する製造技術を開発し、実用化に成功したと発表した。この新しい技術を使って生産された金属製燃料タンクは、このほど発表された日産自動車株式会社のNISSAN GT-R用の燃料タンクとして採用された。

記

ユニプレス株式会社は、後輪駆動車（FR車）や四輪駆動車（4WD車）用の複雑な形状の深絞り金属製燃料タンクを製造している。これらの駆動方式を持つ車両向けの燃料タンクは、サスペンションや駆動力伝達装置を避けながら後席床下付近に取り付けることが多いことから、成形が難しい鞍型形状が要求される。こうした形状は、一般に形状自由度が高いといわれている樹脂でも実現が困難であり、ユニプレス株式会社では従来から、薄くて加工し易いという鋼板の特性と同社の高い深絞り加工技術を活かし、金属製燃料タンクで実現してきた。

この度発表されたNISSAN GT-Rでは、燃料タンクに与えられる空間が極めて限られたものであった為、樹脂製タンクではもとより、従来の同社の金属製燃料タンク加工技術でも要求されたタンク容量と性能を出すことが極めて困難であった。

同社は、この課題を解決する為に、樹脂に比べて高強度化・薄肉化が可能な金属のメリットを最大限に活かして、新たに超深絞り加工技術の研究・開発に取り組んだ。この結果、樹脂製タンクに勝るタンク容量と軽量化が図れる超深絞りの鞍型金属製燃料タンクの開発に成功し、NISSAN GT-Rに採用されるに至った。今回開発した金属製燃料タンクの絞り深さは、同社従来比で約1.6倍に達する。

環境規制の強化やリサイクルへの意識の高まりなど、地球環境への配慮が強く求められている中で、この燃料タンクは、鉛フリー、クロメートフリーニーズに応えた自動車燃料タンク用メッキ鋼板「エココート-S」（新日本製鐵株式会社製）を用いている。耐食性・成形性・溶接性に優れるこの鋼板の開発と同社の超深絞り加工技術開発のコラボレーションによって、今回の実用化が可能となった。

これらの新規開発技術を元に、金属製燃料タンクに対するニーズの高まりに応じていく。

問合せ先 広報・IR室 045-470-8797